

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人の理念「自分や家族が心から利用したいと思える福祉サービスの提供」をもとに事業所として介護基本10か条を作成している。理念・経営方針・介護基本10か条で入居者様の尊厳保持・地域交流を大切にしている。	○ 10か条は現状に則して年度毎に見直していく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝礼で社会福祉法人共有の理念を唱和している。グループホーム内で独自の介護基本10か条を作り申し送り時に(1日3回)確認している。スタッフで毎月業務ミーティングやケアカンファレンスを行うことにより理念の実現を目指している。	○ 理念が実現できているかを評価して入居者様がより安心して過ごせる場所になりたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	御家族様へ契約時に理念を説明している。グループホーム内の掲示や家族会の資料・法人の季刊誌で理念を示している。運営推進会議や介護者教室等地域に対して理念について話している。	○ 回覧板にグループホームの事のパフレットを入れてもらい地域に知って頂ける機会を作る。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の途中にお茶に誘われ自宅でお茶に呼ばれたり近所の方や近くの八百屋さんやたこ焼きさんによく声をかけて頂いている。	○ 今後もスタッフから挨拶を心がける。お茶等に呼ばれた際は今度はグループホームに遊びに来て頂ける様呼びかける。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の自治会に入会している。毎月の不燃物出しに入居者様と参加したり毎月2回の童謡教室や地域の運動会・お祭り等に参加している。	○ 平成19年9月より毎月1回行事とは別に地域のお店でのお食事会を計画している。今後も地域の中に参加できることを検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護者教室の講師として認知症や身体介護についてのお話をしている。「まつり古賀」や「もちつき」を実施し地域の方に来て頂いている。毎週のリーダー会議、月1回の法人合同リーダー会議等で話し合い講師依頼等に応じている。	○	今後も地域の方を対象にグループホームスタッフが有している介護技術や知識を役立てたり地域貢献の意識を高めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後職員で話し合いを行い具体的な改善に取り組んでいる。情報はパソコンや書類で共有している。	○	今回、スタッフ間で自己評価を行なう上で意見交換できたり取り組みの再確認ができた。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて月例報告や外部評価結果を報告し運営や介護の質の向上に取り組んでいる。特に家族の意見や地域代表からの地域の高齢者の現状や行事案内等を聞きサービスに取り入れている。	○	今後も意見を広く求めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回管理者が市を訪れグループホームの利用状況を報告している。市と共に質の向上に取り組んでいる。	○	今後も市町村との連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の勉強会の実施や成年後見人制度のパンフレットを事業所に置くことでスタッフが理解出来ている。現に1件、成年後見人についての相談を受けた為対応し、情報提供を行った。	○	勉強会を継続する事でスタッフ間でより知識を高め、様々な事例に対応できるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や言葉かけについての勉強会を実施し拘束をしない介護を実施している。	○	御家族様とも協議しながら今後も拘束の無い生活を提供したい。言葉掛けにも慣れにならないようスタッフ間で注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の際個別に面談し、時間をかけて対応し、十分説明し納得の上で契約を結んでいる。</p> <p>○</p>	<p>契約後のフォローも徹底していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時自由に話せる雰囲気を作っており意見に耳を傾けている。3:1より手厚い人員配置とし、入居者様と会話する時間を多くとれるようにしている。</p> <p>○</p>	<p>今後も自由に話せる雰囲気を作っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月写真入りの「グループホームだより」請求書と一緒に送付している。面会時に暮らしぶり等を報告している。職員の人員はグループホーム入り口にスタッフの写真を掲示して御家族様にスタッフ配置が判り易い様にしている。</p> <p>○</p>	<p>今後はより意見交換できるよう御家族様との連絡ノートを作成して活用していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱の設置や家族会開催前に事前アンケートを送付している。家族会の中でも意見を話せる機会を作っている。月に1度のケアプランの状況報告でも意見交換を行って記録に残している。</p> <p>○</p>	<p>今後はより意見交換できるよう御家族様との連絡ノートを作成して活用していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回業務ミーティングを実施しておりその中や事前アンケートで意見や提案を聞いてミーティング後反映させて取り組んでいる。他にいつでも運営者や管理者に相談できる様になっている。</p> <p>○</p>	<p>スタッフ間でより問題意識を持ち業務に取り組み意見交換をしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>臨機応変に職員配置の調整を実施している。</p> <p>○</p>	<p>今後も必要に応じて人員を調整し柔軟に対応していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の人員はグループホーム入り口にスタッフの写真を掲示しており把握できるようになっている。質問があれば離職の旨を伝えている。入居者様には不安を与えない雰囲気や声掛けを行なっている。</p> <p>○</p>	<p>スタッフが長く働ける環境を作っていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の年齢・性別で対象から排除されない。可能な限り有給休暇を取得している。育児休暇や有給を取得しやすくしている。希望があれば勤務体制を考慮した上で働いている。	○	スタッフが社会参加や自己実現できるよう資料を揃えていく。今後も人権を尊重した採用を続けていく。
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	認知症の方が思いを持って生活していると啓発できる文章をグループホーム入口に掲示している。勉強会にて啓発活動に取り組んでいる。介護基本10ヶ条に入居者様の人権を配慮した文章を入れている。	○	勉強会を継続して人権に対する意識を高めたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会や外部の研修に参加することで知識と技術の向上に努めている。法人内で多くの勉強会の機会を提供してもらっている。	○	今後も外部の研修の参加の機会を見つけて参加していく。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し勉強会の参加や法人内の勉強会に参加したり管理者が講師を行っている。	○	平成19年10月に福岡県グループホーム協議会の勉強会主催予定。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護の方法で悩みを抱え込まない様業務ミーティングやスタッフ間の話し合いで意見交換している。事業所で納涼会や忘年会など実施し職員間のコミュニケーションを図る機会としている。	○	今後もスタッフには介護で悩み事があれば抱え込まないで意見交換できる雰囲気を作っていく。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職能給制度を実施している。職員に対して能力開発カードを渡し目標設定を行い、定期的な上司の面接の実施目標に向けてスタッフが向上心を持って働いている。	○	目標を達成できるようにフォローしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にグループホームにお越し頂く、又はこちらが訪問する等してご本人に最低1回お会いし、直接お話を伺っている。話す時には相手を受容した上で、相手は人生の先輩であることを踏まえて失礼のない様に口調や接し方に注意している。事前にご本人の状況を伺っておき、さりげなく話題を作る等工夫している。	○	入居前の面接の機会を複数回もうける。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を2回以上行い、時間をかけて御家族様が思いを話し管理者もグループホームに対する思いを話すことで最初に関係を作っている。面談以外にも電話にて質問等を受け付けている。話しやすい状況作りを心がけている。	○	気兼ねするような意見も出しやすくなる様よくある質問、要望などまとめたQ&Aを作り質問の対して迅速に答える。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談の結果満床時、法人内や法人外のグループホームを紹介している。	○	必要に応じて同法人のグループホームを比較して入居する機会を作りたい。一時的な介護疲れの相談があればショートステイ等も紹介したい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず御家族様や入居予定の方にグループホームを見ていただいてから入居をして頂いている。	○	今後は必要に応じて短期間入居して頂き納得して入居して頂く機会を作りたい。入居前でも行事にお声かけし参加出来る機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフが入居者様の得意分野について質問したり相談を持ちかけたりしている。入居者様にもスタッフのことを気にかけて頂いている。スタッフは入居者様に対して教えて下さった時は、感謝の気持ちを伝えている。	○ 関係作りが特定の方に限られない様工夫したい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様への取り組みをお伝えし全ての御家族様に協力して頂いている。帰宅願望の方には実際家にお連れする場合に自由に敷地内に入る事を了解して頂いたり、入居者様の自室をその人らしい部屋にしつらえて頂いたりしている。	○ 御家族様に協力頂けそうな事をピックアップしてプランの作成や更新時に相談させて頂く。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族様に入居者様の様子を伝えることにより和やかな雰囲気を作っている。御家族様にも家の様に自由に過ごして頂いて遠慮なく入居者様と過ごされている。気軽に来所して頂いている。御家族様との関係が余り良くなかった所は必ずスタッフが同席して会う。	○ 今後も定期的にお便りによる情報提供を伝える。。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけると顔見知りの方に会い仲良くお話されている。入居前の知人がグループホームに来られている。	○ 地域の方にお茶に呼ばれる事があるので機会を見つけてお誘いしたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の会う方同士はよく会話が弾んでいる。お互いのコミュニケーションが困難な場合はスタッフが間に入って関わり合う様になっている。一緒に作業して頂く機会を設けている。	○ 今後も必要に応じてスタッフが間に入り支援していきたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院や他施設の移動による退所後も御家族様にお会いして本人の状態を伺い説明を受けている。契約終了後も御家族様より相談があれば真意に対応している。	○ 契約を終了した方に対しては年賀状を出す事で関係を維持したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを用いて本人の思いを受け止められるように努めている。	○ さらに細かい内容まで伺い把握に努めたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様に本人の生活暦を記入して頂いたりセンター方式を用いて把握に努めている。入居者様の話しを聞いて把握に努めている。	○ 今後検討している御家族様との連絡ノートも活用しながら暮らしの把握に努める。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントを用いて本人の能力を把握している。ふれあい記録やスタッフ間の情報交換で把握している。	○ 把握する視点や意識のレベルアップを更に図る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。ケアプランは入居者様と御家族様とスタッフで話し合いながら練り上げている。	○ 一方的にスタッフが話しがちになる場合もある為御家族様に合わせて意見が言いやすい環境を作る。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ間の意見を吸い上げて、毎月カンファレンスを行い介護計画の再評価を行っている。	○ 見直し以前に対応できない変化が生じた際の見直しの流れを作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプランに基づいて個人史の実践や気づきを記載している。	○	ケア実施の状況をより細かく記載し情報を共有し気付いた事を見直してプランを作成する。失敗事例を記載する事で問題点を出しプランに反映させる。その為のスタッフの意識付けや研修を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族様より付き添いの希望があれば付き添いを実施している。入居者様の希望に合わせてお出かけしている。面会は24時間受け付けている。お食事時間は固定しないで状況に合わせて柔軟に実施している。入居者様個人個人の生活リズムを大切にしている。	○	今後も本人、入居者様の意見を組み上げ柔軟に対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方より運動会や童謡教室にお誘い頂いたり夏祭りのお知らせ等広報誌を廻して参加の機会を作っている。運営推進会議のメンバーに行事がある事を教えて頂いている。	○	定期的に事業者から訪問し、地域の組長や民生委員に参加できる事が無いのか相談していく。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内でケアハウス・居宅介護支援・デイサービス・ヘルパーステーション等有しており各リーダーと面識がある為相談しやすい。他の事業所にも相談の内容により迅速に話し合いの機会を持っている。	○	今後も相談に応じて必要であれば系列でない事業所にも相談し対応できるようにする。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所事例が無い。	○	どのような協働の例があるか働きかけていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週提携病院よりグループホームに訪問し診療を行っている。24時間連絡・相談体制が取れている。診察前は情報を事前に連絡しスムーズに受診出来るよう支援している。連携病院の受診にはスタッフが付き添っている。かかりつけ医は提携病院に限定せず希望により選択して頂いている。	○	受診拒否の方のお声かけを検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて認知度の診察や不眠や幻覚に対する対応を相談している。24時間相談を行える体制がある。	○	提携病院以外にも認知症専門医の情報を収集し必要に応じて受診を勧める。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業者の看護師や提携病院の医師や看護師と相談できる体制になっている。毎日事業者の看護師に状態を報告している。看護師用の連絡ノートを用いて情報を共有している。	○	スタッフが事前に看護師に相談する内容をまとめておく。
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際はスタッフや入居者様でお見舞いに行き少しでも本人が安心してもらえるようにしている。退院前にグループホームスタッフが入院先の病院に出向きカンファレンスを実施し、実施後グループホームに戻られている。退院時看護サマリーを提供して頂いている。	○	退院時のみでなく、入院中の途中経過の情報収集を行う。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携病院と御家族様とグループホームでカンファレンスの機会を持ち支援の指針を検討している。スタッフ同士でも意見交換し状態に応じて御家族様と相談し少しでも長くグループホームで過ごせるよう支援している。同意書を頂いている。入居前の説明時から終末期でも受け入れている事を伝えている。	○	入居前の説明時から終末期でも受け入れている事を伝えているが、もう少し細かくその都度御家族様と話し合いの機会を持つ。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時24時間いつでも連絡できる体制が整っている。訪問診療により状態を把握して頂いている。スタッフ同士でも意見交換し状態に応じて御家族様と相談し状態に合わせて対応し、情報を共有している。同意書に出来る事・出来ない事を明記し、記入して頂いている。	○	かかりつけ医への質問事項をまとめることで、さらなる情報の共有化を目指す。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の居所に移る際は御家族様と意見交換したり必要に応じて移った病院や施設と意見交換を行っている。自室に馴染みの物を持ち込んで頂いている。本人の落ち着く雰囲気作りに家族に協力してもらっている。	○	退所時希望に関わらず情報提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルがありプライバシーを尊重している。	○ 定期的にプライバシーを確保した言葉掛けをしているかスタッフ間で評価していきたい。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の言動を受け止めて自分の能力を発揮できるよう支援している。言葉に出せない入居者様にも様子や心を受け止めて支援している。	○ 温泉に行きたいという希望もあるので可能な限り叶えたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり休まれている場合は他の方の朝食後に起きられ食事を行っている。食事は集まってリビングにて食事を行っているが気分により自室で食べたいと言われる場合は本人の希望を優先し自室でゆっくり一人で食べられる環境を提供している。入居者様の希望に合わせて外出している。	○ 今後も入居者様個人に合わせたペースを大事にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により美容院に出かけられる方もいる。出かける時におしゃれして出かけたり化粧の支援をしている。	○ 今後も女性の方でお化粧が好きな方が多いので日常的な気分転換の為に化粧も機会を増やしていく。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳等入居者様とスタッフで一緒に行っている。お茶汲みやおぼん出し・ご飯をよそう役割が決まっている。入居者様が取ったオクラやトマト等を食事にお出している。昼食作りでは食事の買出しから入居者様に参加して頂いている。	○ たまに仕事を取り合う場合もあるので食事の準備を協力して行えるように支援する。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好き嫌い表を作成し本人の嗜好を把握している。本人の好きな物を提供できるよう心がけている。入居者個人用でうめぼしや昆布を持ち込まれており毎食食べられている。	○ 今よりも入居者様が自由に嗜好品を持ち込む事が出来る様支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全ての入居者様に対してトイレ内での排泄を試みている。少しでもパットを減らしたり紙おむつから布パンツに替えられるよう検討している。毎月業務ミーティングの中で検討している。	○	今後も入居者様と御家族様と相談しながらおむつの使用を減らしていく。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝からお湯を入れており希望があればいつでも入浴できる。希望があれば毎日でも入浴できる。季節毎に菖蒲やゆず風呂を実施している。入浴の他に必要に応じて清拭を実施している。	○	グループホームのお風呂に限定せず希望者に対しては温泉での入浴を実施したい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は寄り添ったり飲み物を提供して安心してもらい休まれる様支援している。昼間眠たい時は必要に応じて休息を取って頂いている。廊下に椅子を沢山配置しており本人の気に入っている場所で休息出来るよう配慮している。	○	昼間の休息時間がどのくらいが効果的かミーティングやケアカンファレンス等で話し合いながら休息ばかりにならない様にする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	道具が取り出しやすい環境を作り、入居者様事に廊下掃除・階段掃除・洗濯物たたみ・食事の盛り付け・ご飯とき・食事のメニュー記入・台ふき等さまざまな役割を持ち実施している。本人の能力を生かして習字やキーボードを演奏して頂いている。	○	今後もケアプラン作成時やケアカンファレンス等で他に入居者様が得意な事を探して生かしていく。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会を作り、付き添う等行っている。お金を持つ事で安心される方は持って頂き飴玉や洋服等を買物している。神社にお賽銭をあげている。	○	個別で買い物に出かけているが今後は行事で大きなスーパーにみんなで買い物に行き入居者様同士の交流の機会を作りたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて散歩等の外出を支援している。毎月の行事で出かけたり、他に童謡教室やドライブ等外出の機会を作っている。	○	9月から毎月地域のお店に外出に出かける計画を立てて実施している。さらに地域のお店を探して体制側の協力を得ながら外出の機会を作る。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事に御家族様にも案内を出して参加を募り一緒に参加している。他に電車に乗ったり映画鑑賞など普段行けない所に出かける機会を作っている。個別でスタッフと買い物やドライブに出かけている。	○	買い物やドライブ以外でさらに個別の外出の機会を作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話の希望があれば即時に対応している。入居者様は御家族様から年賀状が受け取る事が出来る様スタッフが確実に手紙を渡している。	○	入居者様が手紙を出す事が少ないので、入居者様から御家族様に対して年賀状を送る機会を作る。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様の御家族様には自分の家と思って来て頂ける様お話ししており、グループホームでの宿泊も歓迎している。来所時お茶をお出しして心地よく過ごして頂けるよう心がけている。テーブルやソファを配置して居心地の良い空間作りを心がけている。	○	入居者様の希望を吸い上げつつ、御家族様と相談し友人への連絡を行う。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する勉強会を実施しており、道具による拘束の他に言葉かけにより拘束が生じることをスタッフは理解している。理念として拘束しないのが当たり前という考えでスタッフは介護を行っている。	○	勉強会を継続してスタッフ同士で評価していく。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から早朝まで施錠しているが日中は開放しており入居者様や面会の方が気軽に出入り出来るようになっている。	○	御家族様とも相談しながら開錠の時間を増やしていく。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士が気を配り必要に応じて入居者様をフォローしている。入口にセンサーを設置し入居者様等の出入りが把握できるようになっている。必要に応じてヒヤリハットを検討して再発防止に努めている。月に1度必ずヒヤリハットの評価を行っている。	○	さらに今後も入居者様が安心して過ごせる様ミーティング等で検討していく。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	対応マニュアルを作成している。注意物の保管状況を確認してチェックしている。入居者様が使用する場合は安全に使用できる様見守りを行っている。	○	必要に応じてマニュアルを更新していく。新たに注意が必要な物が無いかスタッフ間でミーティングで話し合いながら検討していく。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応マニュアルを作成している。事故に対する勉強会を実施して防止に努めている。毎月ヒヤリハットを評価を行い再発防止に努めている。	○	必要に応じてマニュアルを見直して事故に対して防止していく。勉強会を定期的実施していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルを作成している。急変に対応できるよう勉強会を通して徹底を計っている。	○	勉強会を定期的に行い知識を共有し応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行っている。訓練後スタッフで話し合いを行いより安全に対応できるか検討している。	○	9月も消防訓練を予定しておりグループホームに即した訓練を行なっていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由に生活するうえで転倒の可能性があることを入居前や家族会等で話している。	○	今までの転倒に関するデータをまとめて整理し御家族様に説明する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化があれば引継簿に記載し情報を共有している。病院や看護師と相談できる体制がある。	○	今後も必要に応じて適切な医療機関の紹介を行っていく。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を見て現在の入居者様の服薬の状況を把握している。誤薬があった場合はヒヤリハット評価の際再発防止の方法を検討し実施している。	○	現状に満足せずより服薬に対して理解が深まるように一覧表等を整備していく。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレチェック表を作成し排泄の間隔を把握している。便秘の場合は薬だけの対応ではなくトイレに座って頂いて腹部マッサージを行っている。	○	服薬や腹部マッサージの他に必要に応じて自然食品でも対応していく。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けや支援を行い清潔保持に努めている。必要に応じて提携病院の言語聴覚士にアドバイスをもらって実施している。	○	特に歯磨きが嫌いな方に対しての取り組みを検討し実施していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個人毎に水分チェックを行っている。食事のみでは栄養バランスの調整が難しい場合は栄養補助飲料の提供を行っている。好き嫌い表で個人の好き嫌いを把握して支援している。	○	水分を取れる様、必要に応じ対応を協議し実施していく。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って感染予防している。面会者がグループホームに入る前は手を消毒してもらっている。	○	感染の流行に応じて緊急ミーティングを行ない対策の徹底を図る。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	真空調理方式の配食サービスを活用しているが、調理時の温度確認により食中毒にならないよう管理している。	○	現在の管理方法で大丈夫と過信しないで温度確認を実施する。食中毒の時期に応じて緊急ミーティングを行なって決められた手順を励行し予防を図る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターや鉢植えを置いて家庭的な雰囲気になっている。	○	近所の方に気軽に入る事の出来る様コミュニケーションを図り日頃のお付き合いを大切にしていく。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに七夕の竹やこたつやクリスマスツリーを置いて季節感を出している。リビングに入居者様とスタッフで作った日にちが分かるボードが置いてあり毎月一緒に作っている。スタッフは不快な音を出さない様に配慮し光の調節を行っている。	○	今後も生活観や季節感のある物を増やして四季折々が感じられる空間作りを目指す。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のあちこちに椅子が置いてあり自室以外にも一人で過ごせる環境を作っている。	○	必要に応じて一人になれる場所を増やしたり環境を整備しお互い同士の動線がぶつからない様工夫する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に使い慣れてた家具や馴染みの物を入口や室内に置くことで自分の家(部屋)として過ごせる様工夫している。	○	馴染みの物を増やしていけるように御家族様にも相談しながら居心地よい空間作りを目指す。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	マニュアルに応じた生ゴミの処分や汚物処理をこまめに行いにおいにおいやなのにおいがしないよう心がけている。空調も一箇所に集中リモコンがある為必要に応じて調整している。自室は本人に確認し調整している。	○	今後も極力自然な空気に触れられる様自然換気をしつつ空調を併用して温度湿度調節を行う。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手を携えて歩かれるようになっている。車椅子でもトイレに入れる広さとトイレ内に手すりがある。廊下の横に手添えがある。	○	日常の動作を妨げず、リハビリを考えながら転倒防止の機能を充実していく。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングに大きく日にちを書いたボードを置いている。居室入口に馴染みの物を置く事で自分の家(部屋)として理解されている。本人の能力を生かせるキーボードや習字道具等の備品もある。	○	得意なものを生かせる備品を増やし、出来るだけ本人の能力が発揮しやすい場を作っていく。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者様とスタッフで洗濯物や布団を干している。外回りやベランダに花や野菜を鉢やプランターに植えている。取れた野菜を食事に出している。大きなベランダがありベランダでバーベキューや食事やおやつを楽しんでいる。	○	今後も継続してベランダを有効利用し緑と花のあるスペース利用を工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

「自分や家族が心から利用したいと思える福祉サービスの提供」の理念のもと理念の実現を目指しています。入居者様が自分の家として遠慮無く自分の能力を発揮出来るように支援しています。入居者様とスタッフが共に支えあう関係を築いています。